

自己の思いを表現する活動を通して

学習意欲の向上を目指した小学校社会科の授業実践

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 言語・社会科学系（社会）

森山 凜

本研究の目的は、小学校社会科において、児童が学習内容に自己の思いを重ね、その思いを含めた表現活動を行うことが、理解の深まりや学習意欲の向上にどのように寄与するのかを明らかにすることである。そのため、①児童の思いや願いと学習内容をどのように結び付けるか、②児童の思いや願いを授業の中にどのように位置付けるか、③知識を押さえる手立てをどのように構成するか、の三点を軸として授業実践を行った。

本研究を通して、児童の思いや願いを授業に取り入れることは、学習内容の意味づけを促し、主体的な関わりを高める上で有効に働くことが示唆された。一方で、今後の課題として、思いの扱い方が挙げられる。児童が自己の思いを基盤に考えを形成し、根拠をもって表現する力を一層高めるための授業の在り方を検討する必要がある。